

「地区別の指針」に基づく地区の動向 (令和5年12月現在)				
No.	地区	昨年度「地区別の指針」		令和5年12月までの地区の動向
		抽出した生活課題	今後の取り組み(まずは何から始めるか)	
1	見付	<ul style="list-style-type: none"> ・お節介？構いすぎない？丁度いい加減のご近所との距離感とは？ ・若い人の悩み、担い手不足、若い人たちのつながりが希薄 ・支援が必要なのにたどり着けない高齢者がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の意見を聞く ・SNS の発信を若い人向けにする ・接着剤的なイベントで繋がりをつくる ・対面と LINE を併用して、積極的なコミュニケーションをとる ・若い人に「高齢者向け・スマホ教室」の講師をやってもらう ・各世代のニーズを掘り起こし、仲間を増やす ・あいさつをし合う ・世代を超えた集まりを、それぞれの自治会でやってみる ・役員退任後もボランティアや地区社協等へ関わりを持ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日に開催している子育てサロンキッズを休日に開催し、ふだんの参加層とは異なる父親が参加できる場を提供した。(参加者計133名) ・民生委員児童委員と連携し、見守り活動のツールとして救急医療情報キットの活用方法について検討し地区全体に広めるための広報を行った。引き続き活用方法について検討していく。 ・せいかつ応援倶楽部の運営。地域のちょっとした困りごとに対応する仕組みとして柔軟に対応。他市町からの視察受け入れや講師として出向くなど積極的に活動を行う。 ・世代問わず参加できる講座(認知症予防講座、高齢社会を良くするための講座、歴史講座など)を企画し交流の場を提供した。 ・「見守り・気づき・つなげる」ための研修会や実践について情報共有の場を設ける。 ・地域福祉懇談会を継続して開催を企画。昨年度の課題について更に理解を深める予定。そのために市内高校や大学、地元の城山中学へ出向き広報を行う。(令和6年1月に開催予定)
2	中泉	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段に困った方への支援が少ない ・地域活動をしている組織の人材が固定化、減少傾向にあり、次世代の人材育成も難しい現状 ・サロン等の参加者が固定化、減少傾向にある ・持続可能な組織運営 ・横のつながりが薄く、組織同士でつながりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情を把握する ・移動に困る方への支援を考える ・活動に参加できない方へのサポート ・情報をわかりやすく発信 ・地域と福祉関係機関との連携 ・見守り、声掛け活動、相談を聞く、つなげる ・住民の方に地域活動の情報提供、PR ・小地域ネットワーク活動の推進、自治会毎の福祉推進会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①サロン参加者の移動手段の検討を実施 ・七軒町サロンで八生会(リッツハウス)の協力で、施設運転手及び車輛による送迎を開始。利用者は7人程度 ・サロン送迎の協力ができる他の施設の確認。送迎を必要とする参加者(送迎があれば通える)の有無を他のサロンに調査 ・送迎を検討してもよいという回答施設は2カ所(包括調査) ②情報発信について(以下企画運営委員会で承認済) ・福祉部会のチラシを作成。今後自治会回覧を予定 ・福祉部会の活動内容を2～3カ月に1度自治会回覧を予定 ・福祉部会単独のホームページ作成を予定 ③こども情報交換会の実施(3年計画R5は2年目) ・顔の見える関係づくり(1年目) ・中泉地区にあったらいいと思う子育て支援、私たちに何ができるかをグループワーク(2年目) ・1, 2年の実施を経て、実際につながり新たな活動を開始した等、事例報告をする予定(3年目) ④自治会ごとの福祉推進会議の推進 ・小地域ネットワーク会議で自治会ごとの福祉推進会議の実施を推進
3	南	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の対応(災害時・急病時・ゴミ捨て、庭木の管理等生活の困りごと) ・移動手段の不足(買い物、通院、サロン) ・福祉活動、自治会役員等の後継者不足 ・子育てで身近に頼る人がいない ・子育てに関する情報が入らない ・子どもの安全な遊び場がない ・空き家の増加 ・お店等近くにない ・コロナ禍でお祭りや自治会行事中止、転入者など交流の場がない ・働き世代のつながりが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な懇談会の開催で地域の活動者がつながる場 ・買い物支援、移動販売等の検討 ・高齢者サロンの参加者を増やす方法の検討(特に男性参加者) ・情報発信の方法検討(LINEやメールの活用) ・多世代交流(高齢者と子どもの交流)、親子で参加できる地域活動 ・生活応援ご近所クラブの支援員を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内で福祉活動を行っている団体(地域づくり協議会、民生児童委員、福祉委員、地区社協)で連絡会を立上げ、横の連携を密にする取り組みを始める。 ・地区内の他団体と連携し、多世代交流事業へ参加し地区社協事業を広め地域住民への啓発を行う。 ・民生児童委員・福祉委員と顔合わせの機会を設け、サロンや地域資源について意見交換を行う。 ・福祉委員活動として地域資源の情報収集。1月に地図に落とす。
4	長野	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物・通院など移動支援 ・安全な通学路や道路の確保 ・見守りなど高齢者生活支援 ・災害に備える防災活動 ・子育て相談ができる場の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からできることの模索 ・地域活動や防災訓練への中高生の参画 ・自治会活動や情報発信の方法の見直し ・IT活用した住民向け広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・いいじゃん長野を立ち上げ、福祉部(社協参加)、防災部、青少年に分かれてアンケート結果を検討・分析している段階。今年は福祉と防災を中心に進めると決め、活動している。 ・福祉部としては住民の生活支援をテーマに、内容を検討。 ・高齢者生活支援の1つとしてのせいかつ応援クラブに関して、現状と課題を整理しつつ、継続して行っていくための方法を協議中。 ・移動支援は、他地区、他市の取り組みについて、情報収集している。 ・防災としては全住民アンケートの結果を一つ一つチェックすること、避難所運営訓練の強化、自治会ごとの自主防災会の充実を軸に活動を実施。
5	大藤	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会単位で気軽に集える場所がない ・公共交通機関が少ない、移動販売の利用を進めたい ・災害時の要支援者のシステムづくりを進めたい ・外国人とコミュニケーションが取りづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会ごとの懇談会の実施報告と課題整理 地区社協定例会、福祉委員会、民生委員・児童委員定例会、交流センターだより ・地区社協と福祉・医療機関とのネットワーク会議実施 ・大藤みんなの会、大藤こすすの周知とサロンの開催方法についての検討(サロンの出張開催の検討) ・シニアクラブの位置づけ、あり方についての検討 ・デマンドタクシーの利用促進と課題整理 ・移動販売の周知 大藤みんなの会と移動販売のコラボ ・災害時要支援者を支援できるシステムづくりを自治会内で検討 ・外国人のコミュニケーション向上策の検討 例:こみ出しルール(外国版に翻訳)の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉懇談会の開催(令和5年6月～7月) 「ご近所同士でコミュニケーションをとれていますか？」をテーマに各自治会ごとに開催した。自治会長、副自治会長、福祉委員、民生委員・児童委員、班長、地区社協役員が出席して、救急医療情報キットの配布状況、見守りが必要な世帯・要支援について、地区内の困りごとについて、せいかつ応援倶楽部について、その他について懇談をした。地域せいかつ応援倶楽部発足(発足時期未定)に向けて、事業概要の理解促進、地域住民へのPR、困りごとアンケートの実施をしていくことを確認した。 令和6年1月21日(日)に応援倶楽部に関する勉強会を実施する。 ・地区社協定例会、地区福祉委員会にて地域福祉懇談会の内容報告と課題整理をした。 ・役員の成り手がいないため大藤こすすを休止している。 ・大藤みんなの会を月1回開催している。 ・役員の成り手がいないため令和5年4月からシニアクラブの単位クラブが4クラブから1クラブになった。

No.	地区	昨年度「地区別の指針」		令和5年12月までの地区の動向
		抽出した生活課題	今後の取り組み(まずは何から始めるか)	
6	向笠	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり(孤立防止、サロンの在り方見直し) ・高齢者増による担い手の負担増 ・移動手段(高齢ドライバー、同乗の不安、公共交通機関無効) ・独居高齢者の支援(特に地域に顔を見せない方) ・福祉情報をどう得るか伝えるか(買い物支援、福祉制度やサービス、介護や認知症の知識) ・支援対象が高齢者のみに偏りがちであること(子ども、若者、障がい等にも目を向け、巻き込めないか) ・福祉の意識を特定の委員だけでなく自治会全体にも。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地区社協主催で、懇談会参加者への報告を実施。 ・8/18 向笠福祉会議・9/7 向笠自治会長定例会 ・民生委員児童委員(向陽 3 地区出そろった時点で)課題分析を含む報告と、既に課題解決に向けて取り組み始めている自治会(若井原、新屋原)の取り組み事例を紹介。 ⇒報告内容や事例を参考に、自治会ごとで課題解決に向けて動き出すきっかけづくりをする。 ②関係機関と住民有志で【向笠おしゃべり会(仮)】以下2つのテーマについて、それぞれ住民有志の参加者を募り、向笠の課題について考える機会を持つ。 ・「みんながくらしやすい向笠を考えよう(仮)」 参加者イメージ:小学生～壮年熟期 ・「シニアをシニアで支えるために(仮)」 参加者イメージ:壮年熟期～シニア世代 ⇒参加者が地域課題を自分事として捉え、向笠の将来に向けて動き出すきっかけづくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「『福祉』の意識を特定の委員だけでなく自治会全体にも」 ・福祉懇談会を実施し、民生委員、福祉委員、自治会長の3者で、自治会単位での見守り方法について検討する機会を持った。 ⇒「独居高齢者の支援(特に地域に顔を見せない方)」につながった。 ⇒「仲間づくり(孤立防止、サロンの在り方見直し)」につながる自治会增加 「福祉情報をどう得るか伝えるか(買い物支援、福祉制度やサービス、介護や認知症の知識)」 ・初の認知症サポーター養成講座、認知症カフェを開催 「支援対象が高齢者のみに偏りがちであること(子ども、若者、障がい等にも目を向け、巻き込めないか)」 ・若者を巻き込んでの地域を考える会の開催を検討中。 ・男性を対象とした居場所づくりを検討中。
7	岩田	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活不安、課題の解消(通院、草刈り等) ・健康に関する生活不安解消(健康寿命の延伸) ・将来を見据えた地域活動の担い手づくり ・送迎サービスの充実 ・災害時、独居・高齢世帯の避難 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会の実施報告と課題整理(地区社協役員会、交流センターだより) ・包括、福祉・医療機関とのケア会議実施 ・せいかつ応援倶楽部の周知、支援員の募集、育成 ・健康寿命延伸を図るため健康教育や実践活動を実施 ・ウォーキングコースの設定、安全快適な歩く環境づくり ・ボランティア等活動人材の育成 ・デマンドタクシーの周知と課題整理 ・運転ボランティアの高齢化、人材の減少に対する対応策の検討 ・災害時要支援者を支援できるシステムづくりを自治会、民生委員児童委員、福祉委員、地区社協が連携して検討 	<ul style="list-style-type: none"> 「身近な生活不安、課題の解消(通院、草刈り等)」 「健康に関する生活不安解消(健康寿命の延伸)」の課題2点に絞って、以下のとおり取り組んでいる。 ・健康寿命延伸を図るため健康教育や実践活動を実施(薬膳講座、健康講座、健康福祉講演会を開催した) ⇒ウォーキングコース設定、安全快適な歩く環境づくりに展開予定 ・せいかつ応援倶楽部の周知、支援員の募集、育成(豊田東せいかつ応援クラブへの視察を実施した) ⇒今後、新規立ち上げを考えている
8	西貝	<ul style="list-style-type: none"> ・団塊世代の住民が多く、ひとり暮らしや高齢者世帯が増えている。子どもは他県、他市町在住が多い。 ・高齢で足腰が弱り交流活動に参加できない方がいる。 ・移動やごみ出し等の日常生活に困る人が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3 世代(子育て世代、高齢者、その間の世代)を繋げるために、ジュピロ磐田を共通の仕掛けとしてイベントを企画。 ・デマンドタクシーの使い勝手向上。 ・赤ちゃんから高齢者までだれもが利用できる「まちな保健室」の有効活用。 ・中部包括の出張相談。気軽に相談できる機会が増えたらよい。ワンストップで受け止める相談の必要性。 ・ボランティアの高齢化と人材不足を解消するために、民生委員の年齢制限もサロンやさまざまな弃担のボランティア年齢制限なくして撤廃したらよい。元気な高齢者が多いので、活躍の機会を。 ・年金の問題。受給年齢上がり働いている人もいる。年齢によって元気の度合いも違う。 ・コロナ禍こえて、活動再開。地域活動を始めないと収まらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉懇談会の開催(11月21日) ・昨年に引き続き、自治会ごと(城之崎、安久路、西貝塚、西之島・上南田の4グループ)でグループワークを実施。昨年は地域課題と活動のアイデア 出しをしたので、それを活かして、その中で優先度と実現可能性を仕分ける作業を実施。自治会ごとの取組み検討に加え、ワークの結果から西貝地区全体としての共通点を検証する。 ・懇談会開催にむけて、地域づくり協議会福祉部3役で打合せ実施(7月、9月、10月) ・次の懇談会を3月に実施予定。11月の懇談会の結果の報告と今後の活動の展開方法について協議を行う予定。
9	御厨	<ul style="list-style-type: none"> ・御厨駅周辺の開発、宅地化に伴う人口及び世帯数増によりコミュニケーションが希薄化している地域がある。また、転入世帯と既居住世帯や、世代間のコミュニケーション不足の問題もある。 ・自治会ごとで人口構成が異なるため、抱える問題も異なる。 ・新貝自治会は高齢化率が低いものの、子育て世帯を含め若い世代の問題は見えない。他の自治会は高齢化に伴う諸問題がある。 ・工事車両の往来、また、道路が新しく交差点等の危険箇所がいくつかある。 ・ゴミの出し方が徹底されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売の調整支援を行い、買い物支援をする。 ・困りごとアンケートを実施して、今後の取組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の問題が見えにくい。高齢化に伴う諸問題。 ⇒御厨地区地域福祉部会にて、令和4年11月に「困りごとアンケート」を実施して、住民の困りごとを把握。今後SCより、福祉部会の会議にて困りごとアンケートから取り組みそうなことについて相談する。 ・御厨地区地域福祉部会にて、コロナ禍で中止になっていたイベントについて協議、開催。来年度以降のイベントの有無、在り方については検討予定。 ・みくりや生活応援倶楽部の会議にて、移送支援について検討を実施。市内で移送支援に取り組む団体の情報収集および、市外で移送支援に取り組む団体の視察。 ⇒みくりや生活応援倶楽部での移送支援を開始。 ・みくりや生活応援倶楽部の今後の体制、組織について協議中。 ・福祉委員会にて、福祉委員、民生委員、福祉部会正副会長、福祉部会事務局、自治会長で福祉委員の役割確認および福祉見守りマップの方向性について協議。
10	南御厨	<ul style="list-style-type: none"> ・人口及び世帯数は減少傾向、高齢化率が高く、特に後期高齢者の増加が今後も見込まれ、支援が必要な人口に対し支え手となる人口が少ない。 ・担い手不足。 ・高齢化に伴い輪番制でできた自治会制度が難しくなる。 ・ゴミ出し支援。 ・日中独居の高齢者の見守り。 ・スマホが使えない、情報難民。 ・路線バスが撤退し、移動に困る。 ・買い物する場所が近くにない。 ・防災対応が不安。 ・若い世代が少なく、地域ボランティアが育たない。 ・外国人との生活様式の違い(地区人口の2割弱)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出された課題を整理し、地区社協としての取組み課題の範囲を確認した。今後は課題を抱えている住民がどのくらいいるか調査をし、優先度を考えながら取り組んでいく予定。 ・移送支援については、地域づくり協議会が「公共交通の未来を考える会」を立ち上げ、話し合いを継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉懇談会の開催(9月26日) ①情報共有(移動支援、東新町サポートボランティアの会) ②活動の検討会議の持ち方の相談(絞り込んだ課題について、具体化する方法について相談。社会参加、自立支援、住民の協働等、課題整理と意見交換) ・懇談会の事前事後の打合せ(事前8/29、事後11/13) 地区社協三役会+地域づくり協議会地区長+東新町サポートボランティアによる懇談会打合せ。8月の事前打合せでは、東新町の活動を地区の生活応援倶楽部へ移行する提案がされた。しかし、懇談会を通して一定飛びに進めるのではなく、「見守り応援倶楽部」のような取組みができたらいのいかもというおぼろげな将来像を共有することができた。 ・今後の進め方は、困りごとが大つかみで漠然としているため、地区全体でアンケート調査をする。他地区のアンケートを参考にするため情報収集する。

No.	地区	昨年度「地区別の指針」		令和5年12月までの地区の動向
		抽出した生活課題	今後の取り組み(まずは何から始めるか)	
11	田原	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族、高齢夫婦の世帯が増えている。 ・買物、通院、通いの場等への移動手段の課題がある。 ・子育てについて、気軽に話せる人や頼れる人が少ない。 ・高齢者等、生活のちょっとした困りごとを抱えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の担い手支援として、対話、役割分担、次世代の若者育成、活躍機会の拡大 ・さりげない話し相手、多種多様な居場所づくり ・居場所や通いの場と移動販売を合わせた取り組み ・コロナ禍を経た地域行事の「再起動」 ・地域団体の横の連携強化 ・地域住民の対話の継続実施 ・包括や子育て支援機関など相談できる場所の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・田原タスクミーティング(7/8, 8/26, 9/16, 10/14, 11/11)懇談会と昨年のタスクミーティングで課題の整理ができた。 <ul style="list-style-type: none"> ①地域せいかつ応援倶楽部の立上げ検討 ②移動支援活動の研究(南御厨の情報収集) ③とくし丸の利用拡大 ④子育てサロンの活性化 ①②は他地区の情報収集と研修、③④は地区の関係者を招集し、分科会形式の会議を検討。メンバーの選定や課題整理。 ・11月11日分科会開催。今後、課題解決の対策をメンバーで検討。
12	今之浦	<ul style="list-style-type: none"> ・アパートが多く、定住しない ・地域への愛着が薄い ・2中学校区(磐田第一中学校・城山中学校)があり、学区割が複雑 ・地震・水害など災害が心配 ・人のつながりが分かりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は懇談会を開催し、その結果をフィードバックする。 ・地区で共有し、令和5年度以降も継続して話し合いの場を持つ ・高齢化が少しずつ進んでいるので、生きがいの場づくりをしたい ・学区が異なるので、両方の学区の子どもとの顔合わせ、話し合える会を開きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な見守り活動についての理解を深める場を持つ。 ・サロン活動、百歳体操等の健康活動を継続して開催。地域住民の交流の場として活用。 ・課題共有の場の持ち方について検討中。
13	福田	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や免許返納後の移動手段(買い物、通院) ・買い物ができる場所が、地域によっては少ない。 ・地域の担い手不足(高齢化、若い人が戻ってこない) ・空き家が増えている ・独居者(高齢者だけでなく)が増えて、見守りが必要 ・ゴミ出しルールが守られない ・人との交流が減り、地域のつながりが希薄化(コロナの影響もある) ・少子化による小学校の統廃合⇒地域の拠点がなくなる ・ホッとできる場所、集える場所が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組んでいる健康活動の継続 ・福田の魅力をPRして、若者が住みたいと思ってもらおう ・買い物支援活動の継続、必要な地域への支援・協力を 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動、百歳体操等の健康活動を継続または再開(コロナ禍で中止)している。 ・健康への関心を高めるため、健康福祉講演会やウォーキングイベントを実施した。 ・地域課題を意識していただくため、地域福祉懇談会を前年度に引き続き開催した。 ・杏林堂ととくし丸、JAときめきマルシェ、豊浜ふくの市を通じて、買い物に困る高齢者の問題に取り組んでいる。
14	竜洋	<ul style="list-style-type: none"> ・買物、通院等の移動手段 ・空き家問題 ・子ども達の長期休暇等時の居場所 ・個人情報の関連から、情報の共有化の困難さ ・近所、隣同士のコミュニケーションの不足 ・自治会内の役員同士の連携 ・気軽に寄れる場所がない ・担い手、リーダー不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々人のやってみたい参加したいの気持ちを活かし、参加しやすい環境、雰囲気作りが必要。 ・意見交換する機会、ゲーム等を通して考える機会など住民の意識、自分事として学び・共有することが必要。 ・リーダー養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・常設の居場所を利用し、地区内の交流事業を行う。 ・担い手確保として民生児童委員のOB会をつくり何ができるか検討を重ねる。現在竜洋の人材バンク的な存在になっている。包括事業等で人が必要な時に声掛けし事業に関わってもらう。 ・民生児童委員、福祉委員、地区社協の役員で健幸講座を受講。その後、身近な地域での取り組みが必要であることを伝え、健康長寿の3要素実現に向けて集まれる場の検討。 ・児童部の活動に中学生ボランティアを取り込み、役員等との交流を深める。
15	豊田東	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の備えや避難 ・自治会などの地域活動 ・日常の買い物不便なこと ・農地の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・全住民アンケート結果の全戸配布 ・アンケート結果を受けての課題の整理(アンケート実行委員会を拡大して検討する) ・アンケートの記入意見について、自治会へ課題を返していく ・豊田東まちづくりワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田東交流センター事業として、まちづくりワークショップの開催 ・全住民アンケート実行委員会の開催(課題への対応を検討)

No.	地区	昨年度「地区別の指針」		令和5年12月までの地区の動向
		抽出した生活課題	今後の取り組み(まずは何から始めるか)	
16	井通	<ul style="list-style-type: none"> ・単身高齢者、高齢者世帯が孤立しがちである。 ・支援の必要な人を十分把握しきれていない。 ・子育て世帯を、地域で支えていく仕組みが不十分。 ・誰でも集える居場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの虐待実態の情報収集を考えたい。 ・地区活動の目標への理解、見守り対象の把握、協力団体の発掘。 ・見守り、子育ての視点で、子どもとの関わりを持つ。 ・行事の参加者を増やすこと。 ・登下校の見守りの人手不足の解消。 ・サロン活動の支援者を増やす取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・井通地区福祉委員会にて「井通地区の優先すべき活動」を5回に渡り協議した。 ・「サロン活動の充実」が最も優先すべき活動という結論となった。 ・現在は高齢者サロンを充実を重点に、人材育成方法、サロンの内容の工夫と充実などを協議中。 ・「サロン活動の充実」が見守り強化につながるという視点で指針に向かい力を入れている。 ・子育ての見守りの観点から、いずれ子育てサロンの充実にも着手する見込み。
17	青城	<ul style="list-style-type: none"> ・単身、高齢者世帯が増えている。 ・生活上の困りごとを気軽に相談できる場所がない。 ・子育てについて気軽に相談できる人が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事の積極的参加で子どもの把握、見守り。 ・子どもの登下校時見守り、帰宅時間に散歩・見守り ・小学生、中学生の定期交流会。 ・子育てサロン、母子の身近な見守りに。 ・交流センターを高齢者の居場所に。 ・自治会公民館を常時開け居場所に。 ・住民の意見把握、地域の現状、困りごとアンケート ・どんな人がどんな困りごとがあるか明確化 ・活動が決定したら漠然とでなく数値目標を示す。 ・買物支援、ゴミ出し支援の必要世帯の把握 ・シニアクラブ活性化のための方法を検討 ・家庭防災の日、防災装備・実体験伝承、一時避難所の周知、防災講座を年代別に開催 ・サロンの男性参加増加。男性だけのサロン開催。 ・会話できるように道路に長イスのベンチを配置 ・活動参加の人数を増やし、よい人材を探す。 ・買物の移動手段、会員制ボランティアタクシー検討 ・民生委員・福祉委員同席で1人暮らしの集い開催。 ・大きな自治会に交通指導隊(既存自治会は立野、宮之一色、下万能、赤池) ・回覧板の手渡し 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年10月に、誰でも立ち寄れることをコンセプトに居場所「フレンドリータイム」が開設された。 ・「フレンドリータイム」は、これまで2回開催されたが、徐々に周知され始めてきている。 ・「フレンドリータイム」は、今後、男性の参加者も多く取り込めるよう、工夫をしていく予定。
18	富岡	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者や高齢者のみ世帯が増えること ・自家用車の運転が不安な人が増えること ・災害時への備えや避難に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動や地域での活動がなぜ必要なのかを知ってもらう ・元気であるために、健康づくりの知識を学んだり、活動をしたりする機会を増やす。 ・地域の中で気軽に集まる場や話し合う機会(=居場所) ・高齢者の買い物や通院の移動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに視点を置き、「健康講座」を定期的に開催している。 ・糖尿病、認知症など身近な健康について、考える場を設けている。 ・地域の活動の必要性を意識し「歳末配食サービス」を、歳末たすけあい募金配分金を受け再開した。
19	池田	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者や高齢者のみ世帯が増えること ・自家用車の運転が不安な人が増えること ・災害時への備えや避難に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのカフェの再開(まちの保健室開催時) ・民生委員・児童委員と福祉委員の顔合わせ ・独居高齢者への見守り活動の拡大 ・買い物、通院等の移動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・池田せいかつ応援クラブを中心に、独居高齢者宅の見守り支援に力を入れている。 ・1～2ヶ月に1回、池田せいかつ応援クラブのコーディネーターが会議を開き「気になるお宅」の情報共有を行い、見守り強化を行っている。 ・公共機関の減少に伴い、移動支援に関心を持っており、他地区の移動支援の取り組みの情報収集を行っている。 ・民生委員と福祉委員との顔合わせを令和6年2月5日(月)に開催することになった。
20	豊岡	<ul style="list-style-type: none"> 【過去のアンケート結果等から】 ・買い物支援 ・交通手段 ・役員等の後継者不足 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の結果を地区で共有する ・地区に必要な社会資源で挙げた活動について検討。1つひとつを次回以降の住民懇談会のテーマとし、議論を深める。 ・ちょっと集まっておしゃべりできる居場所 ・子育て世代への支援、子ども子育て世代と高齢者との交流 ・買い物支援 ・外出支援 ・豊岡地区を知る活動 ・豊岡地区の魅力を伝える活動 ・後継者不足の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協運営委員会や福祉委員会で結果を共有。 ・地区支援計画や指針を基に豊岡支所長と地区社協役員との懇談。 ・交流センター長へ地区支援計画の説明。 ・東地区にて企業と交流センター長と買い物支援普及の打合せ